

見なおそう!

# みんなの健康

日本赤十字社和歌山医療センター  
http://www.2.kankyo.ne.jp/nisseki-w/

No. 9

## 沈黙の臓器 卵巣の病気!



第一・第二産婦人科部副部長  
山村 省吾 (やまむらしろうご)

す。

この時期から胚細胞腫瘍という病気が出てきます。このタイプの腫瘍の代表は成熟奇形腫（皮様嚢腫）という腫瘍で、

内部に皮脂、毛髪などがたまった袋ができます。卵になる細胞由来のせい、軟骨、歯などいろいろな臓器の組織を認め

激烈な腹痛が起こることが多く、子宮外妊娠と並んで若い女性の急な腹痛で、その原因に疑われる代表的な病気です。

卵巣は「沈黙の臓器」、卵巣がんは「沈黙の殺し屋」と言われています。卵巣は腫れてもあまり痛みや出血がないため、

産婦人科の診察には抵抗がある方もいると思いますが、針を刺したり、強い痛みがある検査ではないので、お腹の症状が気になる方は、ぜひ卵巣のチェックも受けていただきたいと思います。

これが卵巣にできる、血液がたまり時間がたつとチョコレートのようになるため、チョコレート嚢腫と呼ばれます。

20歳代以降の広い年代にわたる多いのが、液体がたまった袋状の腫瘍（表層上皮性腫瘍）で、卵巣腫瘍全体の3分の2を占めます。これが悪性だと卵巣がんです。さまざまな抗がん剤が発明され治療することも増えましたが、進行してから見つかった場合は、依然として治療困難な病気です。

近代化に伴うさまざまな事情により増加してきました。昔に比べて妊娠・授乳する回数や期間が減っているため、生涯にわたる月経・排卵の回数が飛躍的に増加しています。

役割を終え、小さく委縮しますが、腫瘍ができる可能性は残ります。表層上皮性腫瘍が一番多く、がんになる確率は40代から急に上昇し、50代以降も高いままです。

ただ、これらの症状は卵巣に特有の症状ではなく、肥満、食べ過ぎ、一時的な胃腸不調などでも起こるので見逃されてしまつてです。しかし、ほとんどの卵巣腫瘍は卵巣が腫れるため、超音波検査で発見できる場合が多いです。

卵巣は、女性の子宮の左右にあるワズラ卵くらいの小さな臓器ですが、ヒトの

20〜40歳代になると子宮内膜症が増え

40歳代から女性ホルモンは減少し、50

気づきにくいからです。しかし、患者さんから詳しく聞くと、診断前から腹部

12〜13歳頃から、卵巣からの女性ホルモン

卵巣がんは、社会

卵巣は閉経でその

いた人もいます。ただ、これらの症状は卵巣に特有の症状ではなく、肥満、食べ過ぎ、一時的な胃腸不調などでも起こるので見逃されてしまつてです。

これらの記事等は新聞社の承諾を得て掲載してまいります。